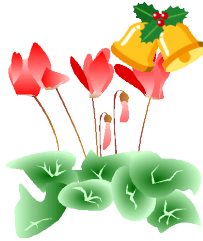


# 架け橋



発行 上都賀教育事務所ふれあい学習課  
鹿沼市今宮町 1664-1  
TEL:0289(62)7167 FAX(62)0148  
Email:kamitsuga-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

令和元年 11 月号

今年度の社会教育主事講習は宇都宮大学にて開講され、上都賀地区からは12名の先生方と1名の行政職員の方が受講されました。講習をふりかえり、学んだことや、今後取り組んでみようと思っていることなどについて投稿いただきましたので、ご紹介します。



## 『社会教育主事講習を終えて』

鈴木 麻子（鹿沼市立東小学校）

21日間、社会教育のことだけを考え、素晴らしい講師の方々のお話を聞き、受講者の方々とともに考え学んだことは、自分自身の大きな財産となりました。学校の中だけで閉ざしてしまいがちな物事を、いかに地域と協働していくか、「つながる」ことの大切さを深く考えさせられました。そして、地域とともに子どもたちを育てていく必要性を学ぶことができました。「自分の地域が大好きな子どもを育ててほしい」という言葉が強く印象に残っています。まずは自分が地域に親しみをもち、この言葉を忘れずにこれからの教育活動に励んでいきたいと思えます

## 『社会教育主事講習を終えて』

加賀美 愛（鹿沼市立北小学校）

今回の講習を通して、地域へ目を向けることが多くなり、今まで知らなかった地域の中の社会教育に気付くことができました。また、学校教育が社会教育につながっていることを実感し、今後は目の前の子ども達が、地域の将来の担い手になっていくことを意識して学校教育に取り組むことが大切だと感じました。子ども達が社会に出たときに、自分の意志で、自ら責任をもって社会をつくっていく生き方をする人材になれるよう、教員として働きかけられるようにしたいと思いました。今回の講習で視野が広がったことを実感しました。今後は、様々な立場の方と積極的に関わっていききたいと思えます。



## 『社会教育主事講習で得たこと』

善林 徳子（鹿沼市立みどりが丘小学校）

社会教育とは、生涯学習とは、地域づくりとは…。受講前は何も分からない状態でした。本講習では、社会教育の基本だけでなく、社会教育の重要性や社会教育の視点から見た学校のあり方、地域のあり方について学びました。人と人が協働して地域をつくること、その拠点として学校が大きな役割を担っていることを知りました。大人が、自分の得意なことやできることで学校教育や地域づくりに参加することで、地域が活性化していく。その大人の姿を見て育つ子どもが、未来の地域づくりの担い手となる。それが人々の幸せにつながる方法だと知りました。地域と学校が協働し、みんなが活躍できる地域を目指して、私も自分にできることを精一杯やっというと思っています。



## 『社会教育主事講習で学んだこと』

小林 隆弘（鹿沼市立清洲第一小学校）

充実した21日間でした。社会教育だけでなく、様々な事を学ぶことができました。社会教育を学ぶことで、学校教育や社会の様々な問題について、社会教育の視点からも考えることができ、自分のものの見方が広がったように思います。これからは、「学校を核とした地域づくり」を推進していくことが重要とされています。それは地域住民だけでなく、子ども・教職員・保護者それぞれにメリットがあると考えられています。子どもたちの教育の充実のため、学校を、地域の人々が集い、つながり、学び合う「場」にするため、地域と連携して学校教育を進めることができるよう、微力ではありますが貢献していきたいと思えます。





### 『社会教育主事講習を終えて』

赤羽根 威彦（鹿沼市立西中学校）

今回、社会教育主事講習を受講する機会をいただき、その21日間の講習はとても濃密で充実した時間であった。社会教育主事は少子高齢化による地方消滅を回避するために、「成人教育」と、未来の地域を支える「担い手づくり」をしなければならない。そのためには、「人と地域」そして「人と人」をつなげることが重要であり、その核となるのが「学校」であると学んだ。「未来の地域」の為に学校を核として、地域と、そして地域の方々と様々な場面で協働・連携することが重要となる。そのつながりをつくる「接着剤」として、郷土を想い、地域に根ざす若者を育てるために、微力ではあるができることから取り組んでいきたい。

### 『社会教育主事講習で得たもの』

矢島 隆宏（鹿沼市立南摩中学校）

梅雨明けを待つ7月半ばからの21日間、ひたすら社会教育について講義を聴き、実践する日々…。初めは自分が何を学習しているのかよく分からず、ただ流れに身を任せるだけでした。しかし2週目に差し掛かり、社会教育が何であるのか、次第に分かってきた自分がいました。「人と人をつなぐ」こと、社会教育は「幸せづくり」であること。自分がその接着剤となること。地域と学校、地域住民同士の「つながり」が将来的にいかに大切であるか、そしてその「担い手を地域とともに育てる重要性」が分かりました。教員としても今後に生かせる、大切な視点を学ぶことができたと思います。この経験をひと夏の幻にしないように、これから私の中に蒔かれた社会教育の種を少しずつ育てていきたいです。



### 『地域とともに歩む』

菊池 潤子（日光市立今市小学校）

本講習を通して、社会教育は人々が幸せになるための地域づくり、人づくり、つながりづくりであることを学びました。特に、教員という立場で子どもたちの未来を考えた時、学校は地域の中にあり、地域全体で子どもたちを育てていく広い視野をもつことの大切さに気付きました。そして、地域づくりに尽力する方々の思いも知ることができました。私の社会教育の勉強はまだ始まったばかりです。今市小学校は長い歴史と伝統があり、毎日絶えず地域の方やボランティアの方が出入りする学校です。この恵まれた環境を大切にし、本校学校経営方針「地域とともに歩む信頼される誇り高き学校」をめざして、今後も勉強していきたいと思っています。



### 『地域を想い、未来を描き、今自分にできること』

近藤 祐香理（日光市立今市小学校）

本講習を通して、出逢えた仲間と共に「社会教育」について考え、話し合い、学びを深めたことは、私にとって大きな財産になりました。自分の住む地域に愛着をもち、すばらしい地域資源を継承していくために、何ができるのか、どうしていったらよいのか等、子どもたち自身に当事者意識をもたせることが、これから先を見通した地域づくりを行っていく上で欠かせないことであり、私たち学校、教師がこのことを意識して授業を行うことが大切であると思いました。本校の目指す学校像「子どもの夢や希望を実現する学校」を心に留めながら、これからも本校PTAの皆様や地域の方々と共につながりや感謝の気持ちを忘れず、学んだことや感じたこと等を少しでも学校や子どもたち、地域に還元していきたいと思っています。





### 『社会教育主事講習で学んだこと』

加藤 有貴（日光市立今市第三小学校）

社会教育主事講習の中で、特に印象に残っているのが「一人で見る夢は夢に終わるけれど、3人いれば始められる、5人集まれば何でもできる。」という言葉です。少子化、子どもの貧困、虐待など、私たちの周りには多くの現代的課題があります。これら全てを学校だけで解決することは不可能であり、そのためには学校と地域が連携、協働していくことが大切であることを深く考えさせられました。また、学校を中心として地域の人と人のつながりができることで、より良い地域を作り出す力になること、地域社会の未来を担う子どもたちを育てることにつながっていることなども学ぶことができました。今後は、地域の方々とのつながりを大切にしながら、講習で学んだことを具体的実践に結びつけていきたいです。



2019/07

### 『社会教育主事講習を終えて』

小松 素明（日光市立猪倉小学校）

社会教育主事講習を受講して、「人と人のつながり」の大切さを学ぶことができました。子どもと大人、大人と大人、地域と学校をつなぐことによって学校の課題を解決していくことになり、やがて地域づくりへとつながっていくという考え方を学ぶことができました。今回の講習を経て、地域連携や地域づくり、地域の担い手の育成など、学校教育の立場から自分にできることは何なのかを深く考えさせられました。今後は、講習で学んだことを大切にしながら、自分にできることに取り組み、地域と学校、人と人とを結ぶ架け橋になりたいと思います。



### 『これからの学校に求められる役割』

臼杵 大輔（日光市立下原小学校）

今までは、「社教」という言葉に対して、あまり良いイメージを持っていませんでした。ボランティアをお願いすることすら、敬遠してしまうくらいでした。しかし、講習が終わる頃には、そのイメージはがらりと変わりました。地方創生の考えのもと、学校は「大人の学びの場」、「地域づくりの核」として、地域のコミュニティを活性化する役割を担うべきだと感じました。個人としては、学校の中で児童や保護者、地域の方などと向かい合ったときに、人と人をくっつける接着剤としてのはたらきを意識して、今までとは違った話し方ができるのではないかと考えています。



2019/07

### 社会教育主事講習を終えて』

手塚 智博（日光市立豊岡中学校）

7月17日、終業式2日前ということもあって、学校の子どもたちが気になる中で講習が始まりました。8月9日、講習最終日を迎えても、やっぱり学校のこと、子どもたちのことは変わらず気になりました。学校からしばし離れたことで、教員という仕事が、自分にとってかけがえのないものであることに、改めて気づくことができました。人と人のつながり。講師の方々や多くの活動を共にした15班や地域班のメンバー、受講者の方々には、心から感謝しています。振り返ってみると、大人が学び直す楽しさを知った21日間でした。今回出会えた方々と、いつかどこかで再会するのが楽しみです。貴重な研修の機会をいただき、ありがとうございました。



### 『社会教育的な目線』

阿久津 俊喜（日光市中央公民館）

今回の講習を受講して、新しく「社会教育的な目線」を持つことができたかなと感じています。たとえば、今まではただただ地域で行われているお祭り・イベントでした。しかし、新たな目線を持つことで、この活動を通してつながりが生まれて、新しい可能性が生まれ、未来の地域の担い手が育っていくのかなと思うとただのお祭り・イベントが主体的な学びの場であると感じました。そのような目線がひとつ加わることで、新たな目線で物事を感じることができ、これからの業務が主体的な学びの場となるように。つながりを多く作れるように。そんな風に思えるようになる講習でした。貴重な機会をありがとうございました。



2019/07/09

### 社会教育主事講習等規程の一部改正について

令和2年度より社会教育主事講習が変わります。（平成30年2月 社会教育主事講習等規程一部改正の省令による）

社会教育主事が人づくりや地域づくりに中核的な役割を担うことができるよう、社会教育主事養成課程と社会教育主事講習の科目が改定されます。（社会教育計画→生涯学習支援論、社会教育特講→社会教育経営論）また、講習等における学習成果が広く社会における教育活動に生かされるよう、講習修了者は「社会教育士」と称することができるようになります。

社会教育士は講習や養成課程の学習成果を活かし、NPOや企業等の多様な主体と連携・協働して、社会教育施設における活動のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる役割が期待されます。なお、既に講習を修了した有資格者が社会教育士を称するためには、新科目4単位を取得する必要があります。

## 上都賀地区ふれあい学習ネットワーク 兼第2回上都賀地区現職教員社会教育主事会研修会

日時：令和2年1月31日（金） 13：20～16：20

会場：鹿沼市民情報センター（5階マルチメディアホール）

内容：基調講演 『”駄菓子屋楽校“的「地域学校協働活動」！！』

講師 尚綱学院大学（しょうけい）人文社会学群 教授 松田 道雄 氏

ワークショップ 『”仮想のまち”で活動モデルを考えましょう』

### ○講師プロフィール○

山形大学教育学部附属中学校など山形県内の中学校教員の在職中に、山形大学大学院教育学研究科で社会人大学院生として「駄菓子屋の教育的意義」を研究。

2007年 東北芸術工科大学こども芸術教育研究センター准教授

2008年 高千穂大学人間科学部教授（東京都杉並区）

2011年 東北芸術工科大学芸術学部教授（山形県山形市）

2016年9月より現職（宮城県名取市）



個人の持ち味で手軽に交流の集いをつくる「だがしや楽校」、黒板形式の授業定着ノート「こくばんセタノート」、手軽なミニ将棋「66将棋」（天童商工会議所コーディネーター）など考案。自分みせ・集い・生きがい・互惠関係・世代交流などをキーに、老若共同参画社会のあり方実践、創造的活動実践、地域の組織・個人をつなぐ活動づくりを行う。各地の生涯学習講座学習支援者、まちづくり会議などファシリテーター。

現在職では、所属大学で地域住民の交流の場づくりとして、「だがしや楽校」の手法を活かした「語らいマルシェ」（語り合いを楽しみ合うマルシェ）を実践し、地域社会人を大学に招き、地域課題を学生と考え実践する地域人育成教育を始めておられます。